

さまざまな分野で活躍する子どもたちを紹介します。



全日本ペン書道展大賞・準大賞

※掲載情報は8月18日現在です。

#050 Midori Sato

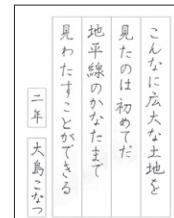
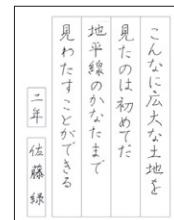
佐藤 緑さん (右)

比布中央学校8年生

#051 Konatsu Ohshima

大島 こなつさん (左)

比布中央学校8年生



比布中央学校8年生の佐藤緑さんと大島こなつさんが、8月2日から4日に開かれた「第88回全日本ペン書道展」児童・生徒の部（硬筆部）で、輝かしい成績を収めました。佐藤さんは大賞の日本書写技能検定協会理事長賞、大島さんは準大賞を受賞。全国から205人が応募した中学2年生部門の中で、大賞に選ばれたのは7人、準大賞は6人という狭き門となりました。

「自分には程遠い賞だと思っていたので驚きました」と話す佐藤さんは、小学2年生の冬から町内のペン字教室『ペン遊会』（星冬紅代表）に通っています。「字をきれいに書きたい」という思いと、楽しそうに通う友達の姿がきっかけといいます。

『字が上手だから』と学校でポスター書きを頼まれ

たときは、習っていて良かったと思いました」とほほ笑み、受賞については「自信がなかつた分、本当にうれしいです」と話してくれました。

大島さんは、小学2年の秋から同教室に通っています。「将来に役立つ」と両親に勧められ、「やってみたい」と興味を持ちました。大島さんは、小学2年生部門の中でも、大賞に選ばれたのは7人、準大賞は6人という狭き門となりました。

受賞について「驚いたし、うれしかったです」と話す一方、「一緒に通っている佐藤さんがさらに上位の賞に選ばれたので、正直悔しい気持ちもあります」と本音も。それでも、「親戚に

当。互いにピアノも習っており、勉強や部活に忙しい秋から同教室に通っています。教室内は楽しくて字を褒められることもあります。「字をきれいに書きたい」という思いと、楽しそうに通う友達の姿がきっかけといいます。

長年教わっている星先生について、佐藤さんは「字も人柄も尊敬できる」、大島さんは「いつか先生の字に近づきたい」と語り、「前は怒られることもあります」たが、今はないです」と笑いました。教室は楽しくて落ち着きます」と前向きな笑顔を見せてくれました。

佐藤さんがさらに上位の賞に選ばれたので、正直悔しい気持ちもあります」と本音も。それでも、「親戚に

8月2日に東京都で行われた表彰式に出席し、賞状を手にした二人。全国レベルでの受賞は、日々の練習の積み重ねの成果です。「大人になつてもペン字を続けたい」と語る二人のこれらを、応援しています。

二人は吹奏楽部に所属し、佐藤さんはトロンボーン、大島さんはホルンを担



受賞を喜ぶ星先生（写真中央）。「二人とも努力家で、粘り強く取り組んでいました。本当に良く頑張りました」。